むさしの TALK

井の頭公園を歩きながら 頭を整理して、小説に挑みます

山田詠美さん

今年で作家デビュー30周年を迎えた、作家の山田詠美さん。
そんな今の彼女が「私の拠点」と言う、武蔵野市での暮らしを伺いました。

吉祥寺に戻ってきて、もう17年になります。大学時代にも、今の自宅のすぐ隣に住んでいて、友達とよくこの周辺で飲み歩いていました。

最初に住んだのは、本当に古いアパートだったけれど、美大生がアトリエにしていたという部屋で、古い教室みたいな雰囲気があって、とても気に入っていました。長い時を経て、またすぐ隣に住むことになって、吉祥寺には運命を感じています。

私はお散歩するのが大好き。一人のときは、朝の井の頭公園によく出かけています。パワースポットと呼ばれる湧き水のところまで歩いて「ご利益をもらったな」と感じながら池を一周する。小説を書いているときには、緑の中を歩いているととても気持ちがニュートラルになります。頭を整理して、フェアにものを考えることができるので、とてもありがたいですね。「これも自然が持つパワーか」と感じています。

4年ほど前に再婚しましたが、夫も散歩がライフワークのような人なので、二人のときには午後、玉川上水に沿って、三鷹台や久我山辺りまで歩いて、ご飯を食べてまた歩いて帰るのがお気に入りのコースです。

昔からまち並みが変わらないのが吉祥寺の良いところだったけれど、最近は大型店が増えて、景色が変わりつつあります。でもそれも含めて受け入れる器が吉祥寺にはある。だって何でもあるのが吉祥寺の良いところですから。私は料理をよく作りますが、ちょっと変わったものを作りたいときでも、都心に出ずに吉祥寺で何でもそろえられるからとても住みやすい。もうここが、私の拠点だな、と思います。ただひとつ、お気に入りの映画を上映する映画館がないので増えるとうれしいな(笑)。

山田詠美(やまだえいみ)

1959年東京都生まれ。作家。85年『ベッドタイムアイズ』で文藝賞を受賞し、デビュー。87年『ソウル・ミュージック ラバーズ・オンリー』で直木賞を受賞。その後も読売文学賞、谷崎潤一郎賞など数々の賞を受賞している。今年1月に『賢者の愛』(中央公論新社)を刊行。

PRESENT

今回取材した、山田詠美さんのデビュー30周年記念作『賢者の愛』(中央公論新社)の直筆サイン本を抽選で5名様にプレゼント!詳しくは本誌折り込みハガキをご覧ください。